

11. 産褥早期の褥婦の母性意識に関与する因子について

東海大医療短大(神奈川県)	: ○新道 幸恵
聖路加国際病院(東京都)	: 松岡 恵
聖路加看護大(東京都)	: 高木 廣文
東海大産婦人科(神奈川県)	: 稲尾 公子, 藤井 明和

母性意識は、母子関係成立の基盤とも言える重要なものである。すでに、成熟期未婚女性の母性意識に関与する因子については報告した。今回は、現実に母性役割を遂行している褥婦の母性意識に関与する因子を、因子分析により検討した。

対象：東京都内の某民間総合病院で出産した褥婦（初産）と、神奈川県内の某大学病院で出産した褥婦（初産）。

方法：質問紙による調査データをバリマックス法を用いて分析した。調査項目は、母親役割の受容、子供との愛着、夫との関わり、支援機構の有無、等52項目である。

結果：夫と子供の世話、お産の苦しみ、母親への愛着、生きがい、自己の成熟度に関する因子等が抽出された。そのうちで、夫と子供の世話、母親への愛着に~~関係~~因子が母性意識にプラスに関与する因子と考えられる。これらの因子を施設別、他の項目との関係において分析した結果もあわせて報告する。

計算はHITAC-M280Hを用い、SPSS (Statistical Package for the Social Sciences) によって統計処理を行なった。調査項目は、子供への関心、夫や自分の母親への愛着、分娩に対する感想、自己観、母親との関わりを主とした生育歴、等52項目である。

結果：調査対象はA病院85名、B病院132名、計217名。対象背景としては、結婚年数は平均2.6年、産褥日数は平均4.0日、有職者は27%、核家族が約80%であった。

因子分析の結果7つの因子が抽出された。

抽出された7つの因子を各々次のように名づけた。第1因子は子供への愛着因子、第2因子は未熟な性格因子、第3因子は分娩体験のマイナスイメージ因子、第4因子は夫や子供を生きがいとする因子、第5因子は夫への愛着因子、第6因子は授乳を喜びとする因子、第7因子は自分の母親への愛着因子。

上記7因子のうち第1, 4, 5, 6, 7因子は母性意識にプラスに関わる因子であり、第2, 3因子は母性意識にマイナスに関わる因子と考えられる。A B両病院間の差の比較では、対象の夫の職業にのみ有意差が認められたが因子間には差は認められなかった。今後、母性意識の尺度化を検討する予定である。

11. 産褥早期の褥婦の母性意識に関与する因子について

新道 幸恵 (国立公衆衛生院)

松岡 恵 (聖路加国際病院)

高木 廣文 (聖路加看護大学)

稲尾 公子, 藤井 朋和
(東海大学産婦人科)

母性意識は、母子関係成立の基盤として重要なものである。母性意識は、女性の生育過程において形成され、妊娠、出産、育児の体験によって発達すると言われている。そこで、我々は、成熟期未婚女性、妊婦、産褥早期と産後1ヶ月の褥婦を対象にして母性意識の調査を行ない、因子分析によって検討している。成熟期未婚女性に関する調査は既に報告した。今回は、産褥早期の褥婦を対象に行なった調査の結果を報告する。

対象：東海大学病院（以下A病院と称す）と聖路加国際病院（以下B病院と称す）で出産した産褥3日目～7日目の褥婦（初産婦）。

方法：質問紙によって調査したデータを主因子分析のバリマックス回転したもので分析した。主要な